

広島市消防団 消防無線運用マニュアル

<平成 28 年 4 月策定>

広島市消防局 消防団室

目次

| | | |
|----|-----------------|-----|
| 1 | 趣旨 | P 1 |
| 2 | 消防無線の運用について | P 1 |
| 3 | 無線チャンネルの指定について | P 2 |
| 4 | 無線運用上の注意事項 | P 2 |
| 5 | 無線配置場所及び配置数について | P 2 |
| 6 | 無線の管理について | P 3 |
| 7 | 通話試験について | P 3 |
| 8 | 故障時の対応について | P 3 |
| 9 | 無線通信交信例 | P 4 |
| 10 | 消防略号 | P 8 |
| 11 | 無線局の感明度区分表 | P 8 |

1 趣旨

本マニュアルは、消防団の消防無線運用に必要な事項を定めるものである。

2 消防無線の運用について

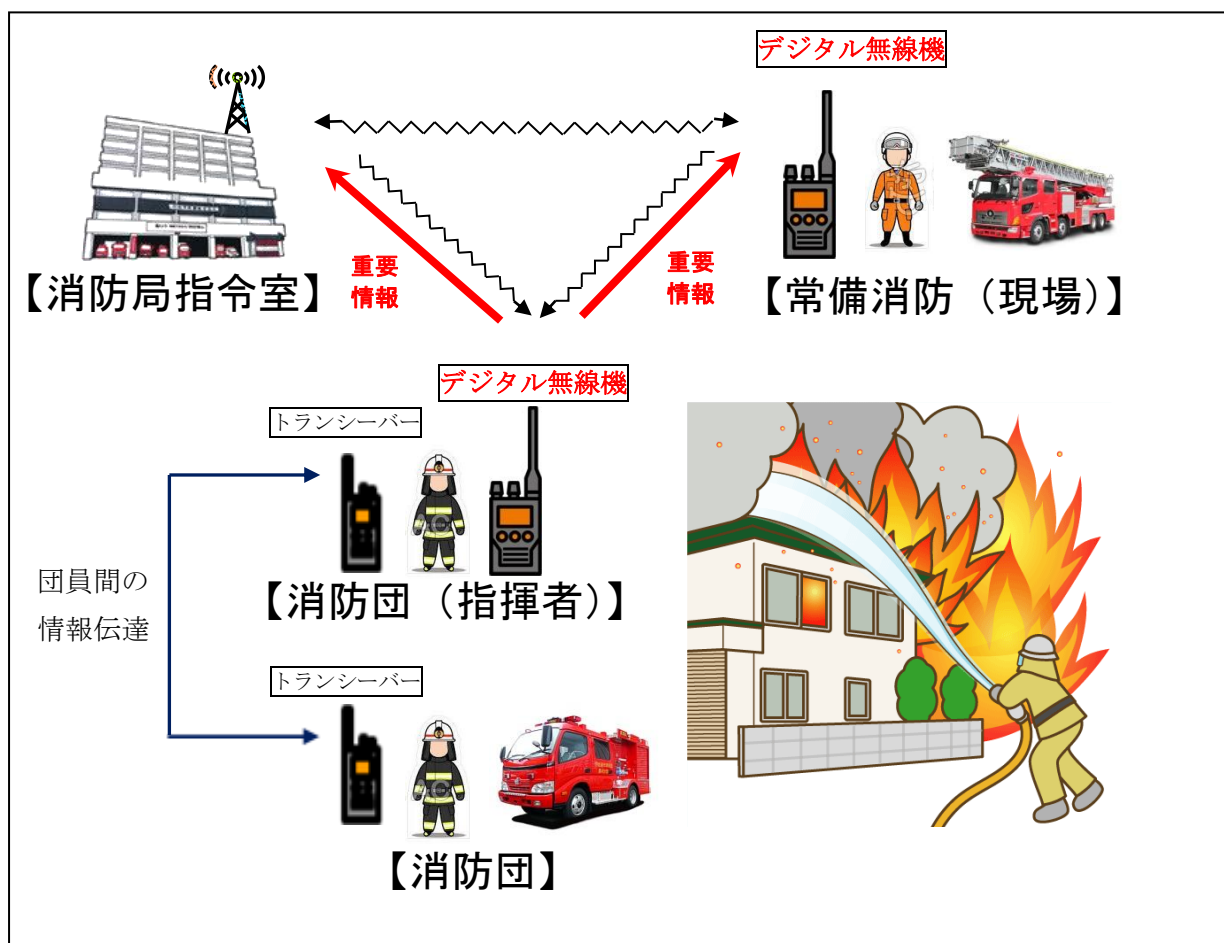
原則、受令専用として使用する。

ただし、以下に示す「重要情報」については、消防局指令室、又は常備消防の現地指揮者に情報を発信することができる。

重要情報

- ① 自己及び他者に危険が迫った場合の救難情報（P 6）
- ② 常備消防より先着した場合の火災延焼危険、逃げ遅れ及び必要な情報（P 6）
- ③ 常備消防から求められた情報（P 4）

消防無線運用のイメージ（デジタル無線機とトランシーバーの使用区分）



3 無線チャンネルの指定について

| CH | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 東部系 | | 7 西部系 | | 8 南部系 | | 9 北部系 | | 10 運用1 | 11 統制1 | 12 統制2 | 13 統制3 | |
|---------------------|---|---|---|---|---|----------|-------------|----------|------------------|-------------|--------|------------------|------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|--|
| 通常時 | | | | | | 南 団 | 安 芸 団 | 西 団 | 佐 伯 団 | 中 団 | 東 団 | 安 佐 南 団 | 安 佐 北 団 | | | | | |
| 災害対策 (警戒) 本部時 | | | | | | 中 団 | 佐 伯 団 | 南 団 | 安 佐 南 団 | 安 芸 団 | 西 団 | 東 団 | 安 佐 北 団 | | | | | |

- ※1 消防局指令室等から指示がない限り、上記表のチャンネルに設定すること。
- ※2 災害対策（警戒）本部時等は、常備消防の指定するチャンネルを切り替えること。
- ※3 訓練等で常備消防から指定があった場合は、チャンネルを切り替えること。
- ※4 管轄区域外へ出動する際は、常備消防の指定するチャンネルに切り替えること。

4 無線運用上の注意事項

- (1) 出動時及び車両で外出する場合は、無線機（予備バッテリーを含む）を携行し、災害情報の収集に努めること。
- (2) 自分の呼出名称を明らかにすること。（呼出名称は、無線機に表示されている。）
- (3) 通信内容の頭切れを防ぐため、プレストークボタンを押してから2～3秒開けて送信を始めること。
- (4) マイク部分を口元から5cm程度離して送信すること。
- (5) 省略できる用語はつとめて省き、簡易短文化を図ること。
- (6) 敬語等内容に不必要な用語は、省略すること。
- (7) 交信用語は、つとめて消防略号を用いること。（P8）
- (8) 送信時以外にプレストークボタンを操作した状態にならないように常に注意すること。
- (9) 送信時間は、原則として連続20秒を超えないこと。
- (10) 言語は簡潔にまとめ、日常会話程度の速さで送信すること。

5 無線配置場所及び配置数について

| 区分 | 中団 | 東団 | 南団 | 西団 | 安佐南団 | 安佐北団 | 安芸団 | 佐伯団 |
|-----------------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 団本部用 (配置場所) | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | (本 署) | | | | | | | |
| 現地本部用 (配置場所) | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 |
| | (本署又は出張所) | | | | | | | |
| 分団本部用 (配置場所) | 9 | 8 | 12 | 8 | 12 | 17 | 9 | 9 |
| | (拠点車庫) | | | | | | | |
| 車両用 (配置場所) | 9 | 12 | 12 | 9 | 24 | 48 | 17 | 25 |
| | (車両を常置する車庫) | | | | | | | |
| | 21 | 23 | 27 | 20 | 39 | 69 | 29 | 37 |

6 無線の管理について

- (1) 無線は、配置場所で管理すること。(個人宅に持ち帰らないこと。)
- (2) 紛失・盗難に注意すること。(車庫の施錠は確実にを行うこと。)
- (3) 車庫点検時等を活用して点検すること。
- (4) 定められた充電方法で充電し、常に使用可能な状態を維持すること。

7 通話試験について

常備消防とのペア訓練時を活用して実施すること。

8 故障時の対応について

無線機に異状が認められた場合は、各署団担当に報告すること。その際、故障時の状況及び状態を伝えること。

9 無線通信交信例

(1) 無線交信の原則

| 項目 | 呼 出 側 | 応 答 側 |
|--------------|--|---|
| 普通通信の呼出・応答 | <p>【消防局指令室】</p> <p>①「広島消防から〇〇分団1」</p> <p>【〇〇分団1】</p> <p>①「〇〇分団1から広島消防」</p> <p>※同時に複数が呼出しを行い、混信を与えている場合は、「どうぞ」にかえて「しばらく待て」を送信する。「〇〇分団1しばらく待て」</p> | <p>【〇〇分団1】</p> <p>②「〇〇分団1です。どうぞ」</p> <p>【消防局指令室】</p> <p>②「〇〇分団1 どうぞ」 又は「広島消防です。どうぞ」</p> |
| 至急通信の呼出・応答 | <p>【消防局指令室】</p> <p>①「至急至急 広島消防から〇〇分団1」</p> <p>【〇〇分団1】</p> <p>①「至急至急 〇〇分団1から広島消防」</p> | <p>【〇〇分団1】</p> <p>②「至急至急 〇〇分団1です。どうぞ」</p> <p>【消防局指令室】</p> <p>②「至急至急 〇〇分団1 どうぞ」</p> |
| 通話の送信及び通信の終了 | <p>【消防局指令室】</p> <p>①「〇〇分団1の所在地知らせ。どうぞ」</p> <p>③「広島消防了解 以上広島消防」</p> <p>※通信の終了「以上〇〇分団1」は、必ず呼出しを行った無線局が送信しなければならない。</p> | <p>【〇〇分団1】</p> <p>②「〇〇分団1の所在地〇〇〇です。どうぞ」</p> |
| 再送及び解信要求 | <p>※通話内容が不明確な時、再送の要求を行うとき。 「さらにどうぞ」</p> <p>※通話内容が途中から不明確なとき。 「〇〇まで了解 以降さらにどうぞ」</p> | |

| | | |
|------------------|---|--|
| 一 斉 指 令 | <p>【消防局指令室】</p> <p>例1 「広島消防から各隊（各移動） 支援情報を送る。現地は○区○○町○ 丁目○番ブロック○○工業棟である。 通報によると黒煙上昇の様様、水利は 工場正門前に消火栓2箇所、事務所横 に40トンの防火水槽、工場東側に河 川 工場内の危険物は○○・○○ 現 場北側住宅にマルキュウ情報 以上広 島消防」</p> <p>例2 「広島消防から各局 ○時○分広島市に火災警報が発令さ れた。以上広島消防」</p> <p>例3 「広島消防から○区○○町○丁目の火 災に出動中の各隊（各移動）無線統制 を行う。○チャンネルに切り替えよ。 以上広島消防」</p> <p>例4 「広島消防から各隊（各移動） これより無線統制を行う。指定された 局以外は指示するまでの間無線交信を 停止せよ。指定局は○○1とする。以 上広島消防」</p> <p>例5 「広島消防から各隊（各移動） 無線統制を解除する。以上広島消防」</p> | <p>【○○分団1】</p> <p>※「了解」の応答は要しない。 ただし、先着隊に対して応答を求めること もある。</p> |
|------------------|---|--|

(2) 至急報の交信例

| 項目 | 呼 出 側 | 応 答 側 |
|-------------------|---|--|
| 救助（救急）等が必要な場合 | <p>【〇〇分団 1】</p> <p>① 「至急至急 〇〇分団 1 から 広島消防」</p> <p>③ 「〇区〇〇町〇丁目〇番〇号付近の水防活動現場で負傷者 1 名が発生した。救急車 1 台を要請する。」</p> <p>⑤ 「以上〇〇分団 1」</p> | <p>【消防局指令室】</p> <p>② 「至急至急 〇〇分団 1 どうぞ」</p> <p>④ 「了解」</p> |
| 火災現場に常備消防より先着した場合 | <p>【〇〇分団 1】</p> <p>① 「至急至急 〇〇分団 1 から 広島消防」</p> <p>③ 「〇〇分団 1 が最先着した。 なお、現地は、指令のとおり。木造 2 階建ての 1 階が全面延焼中、北側及び南側に延焼危険あり。現時点、マルキュウ及びマルイーの情報なし。これより北側の延焼防止及び人命検索にあたる。どうぞ」</p> <p>⑤ 「以上〇〇分団 1」</p> | <p>【消防局指令室】</p> <p>② 「至急至急 〇〇分団 1 どうぞ」</p> <p>④ 「〇〇分団 1 が最先着、延焼危険は北側及び南側にあり。現時点、マルキュウ、マルイーなしの件 了解」</p> |
| 火災を発見した場合 | <p>【〇〇分団 1】</p> <p>① 「至急至急 〇〇分団 1 から 広島消防」</p> <p>③ 「火災発見、現地は〇区〇〇町〇丁目〇番〇号〇〇付近、建物火災（災害種別）第 1 出動を要請する。 どうぞ」</p> <p>⑤ 「以上〇〇分団 1」</p> | <p>【消防局指令室】</p> <p>② 「至急至急 〇〇分団 1 どうぞ」</p> <p>④ 「了解」</p> |
| 交通事故を発見した場合 | <p>【〇〇分団 1】</p> <p>① 「至急至急 〇〇 1 から広島消防」</p> <p>③ 「交通事故発見、現地は〇区〇〇町〇番〇〇交差点、マルイー〇名あり救急出動を要請する。どうぞ」</p> <p>⑤ 「以上〇〇分団 1」</p> | <p>【消防局指令室】</p> <p>② 「至急至急 〇〇分団 1 どうぞ」</p> <p>④ 「了解」</p> |

| | | |
|---------|--|--|
| 危険通知の場合 | <p>【〇〇分団 1】</p> <p>①「至急至急 〇〇分団 1 から 広島消防」</p> <p>③「出火建物南側倉庫にアセチレン容器 10 本ある。各隊に指示願う。どうぞ」</p> <p>⑤「以上〇〇分団 1」</p> | <p>【消防局指令室】</p> <p>②「至急至急 〇〇分団 1 どうぞ」</p> <p>④「了解」</p> |
|---------|--|--|

(3) 水防出動（消防団単独で活動した場合）

| 項目 | 呼 出 側 | 応 答 側 |
|------|---|---|
| 現地速報 | <p>【〇〇分団 1】</p> <p>①「〇〇分団 1 から〇〇消防」</p> <p>③「状況送る。〇〇宅の裏山が高さ〇メートル、巾〇メートル、奥行〇メートル崩壊している。なお、居住者は隣家に避難完了している。これより、〇〇〇〇工法を実施する。どうぞ」</p> <p>⑤「以上〇〇分団 1」</p> | <p>【〇〇消防】</p> <p>②「〇〇分団 1 どうぞ」</p> <p>④「了解」</p> |

(4) 試験電波の発射方法

| 項目 | 呼 出 側 | 応 答 側 |
|-----------|--|---|
| 単独試験の場合 | <p>「〇〇分団 1 ただいま試験中 本日は晴天なり。(数回) 以上〇〇分団 1」</p> | |
| メリット交換の場合 | <p>【〇〇分団 1】</p> <p>①「〇〇分団 1 から広島消防」</p> <p>③「試験電波を送る。 本日は晴天なり。(数回) 〇〇分団 1 のメリットどうぞ」</p> <p>⑤「了解、メリット 5 以上〇〇分団 1」</p> | <p>【消防局指令室】</p> <p>②「〇〇分団 1 どうぞ」</p> <p>④「了解、メリット 5」 本日は晴天なり。(数回) 広島消防のメリットどうぞ」</p> |

10 消防略号

| 種 別 | 略 号 | 呼 称 | 通 信 例 | |
|-----------|---------|-----|-------|--------------------|
| 関係のある者の情報 | 通 報 者 | 通 | マルツウ | 「マルツウは付近の者である。」 |
| | 関 係 者 | 関 | マルカン | 「マルカンは不在。」 |
| | 飲酒又は酩酊者 | 酔 | マルスイ | 「本件マルスイこれより帰隊する。」 |
| | 傷 病 者 | E | マルイー | 「マルイー5名、内マルキュウ1名。」 |
| | 要 救 助 者 | 救 | マルキュウ | 「マルキュウ1名あり。」 |

11 無線局の感明度区分表

| メリット | 感 明 度 |
|------|---------------------------------|
| 5 | 雑音なく通話状態が非常に良好である |
| 4 | 雑音少しあるも通話状態が良好である |
| 3 | 雑音あるも通話の内容が完全に了解できる |
| 2 | 雑音多く通話の内容が半分位しか了解できない |
| 1 | 雑音非常に多く通話内容不明、しかし送信していることが了解できる |

※メリットとは、感度と明瞭度をあらわすもので、音量をあらわすものではない。